

トキ

放鳥地応募決める

石川県は六日、国際保護鳥トキの野鳥放鳥を巡り、能登四市五町や関係団体と協議会を設け、環境省が検討している新潟・佐渡島以外の放鳥候補地に九市町と連名で応募することを決めた。再びトキが能登の空を舞う日を目指すのが、課題は多い。(田嶋豊、上井啓太郎)

農林業への配慮、餌場課題多く

協議会は、世界農業遺産「能登の里山里海」を構成する宝達志水町以北の九市町や経済、農業団体、森林組合などの関係者で構成。馳浩知事は初会合で「世界農業遺産の付加価値を高めるものであり、良好な自然環境を次世代にしっかりと継承し、能登の発展、活性化を図りたい」と述べた。

初会合では、珠洲市の泉谷満寿裕市長は「能登が世界農業遺産に認定されてから十年、トキの放鳥は次の十年に向けての一つの柱になる」と強調。「農業、林業での配慮をどこまでやればいいのか、シンポジウムや勉強会を開く必要がある」と指摘した。

石川県羽咋市の田んぼに飛来したトキ＝2011年2月16日

対策について調査を進めるよう求める声も。はくい農業協同組合の山本好和組合長は会合後の取材に「農業や化学肥料を減らしたら収穫量も減る。米価が下がる中、農家はますます所得減になる。佐渡市などからも話を聞き、慎重に進めたい」と話した。

能登地方は本州最後のトキ「能里(のり)」が生息したゆかりの地。安定的な生息のためには年間通して餌場や水場を確保する必要があり、猛きん類やテンなどの天敵に襲われた例もある。

環境省が示すロードマップでは二〇二六―二九年ごろに本州での放鳥を実施し、三〇―三五年ごろに本州での定着を目指すとしている。



トキの野生放鳥 野生下における昨年12月末時点の生存個体数は推定で478羽で、野生生まれの個体は推定325羽。昨年10月までに放鳥された429羽のうち、今も生存が確認されているのは153羽だけ。2008年9月、佐渡で初めて野生放鳥されたトキの1羽が能登地方に飛来し、16年秋まで輪島市を中心に確認された。県内では七尾市での18年8月以来、目撃情報はないという。

